

## 第2章 創造的なコミュニケーション活動を意識した授業づくり 【中学校英語科】

### 1 基本的な考え方

現行の中学校学習指導要領において、外国語科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」ことであり、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」をバランスよく指導することによって外国語による総合的なコミュニケーション能力を養うことが目指されている。

しかしながら中・高等学校の現状について、中教審の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016）（以下「答申」という。）では、「文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に『話すこと』及び『書くこと』などの言語活動が十分に行われていない」という指導上の問題点と、「習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある」という生徒の英語力における問題点を指摘している。そして具体的な改善事項のうち、「資質・能力を育成する学びの過程についての考え方」として、以下のことが述べられている。

- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、⑦設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する、⑧目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、⑨対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、⑩言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていったりすることが大切になる。
- 言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童生徒が言語活動の目的や、使用の場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な語彙や文法事項などの言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。このような言語活動を通じて、児童生徒の学びに向かう力・人間性等を育成することが重要である。

また、「中高の英語指導に関する実態調査 2015」（ベネッセ教育総合研究所）の結果からは、答申が指摘した現状における課題を教員が認識しながらも改善に至っていない様子が見えてくる。

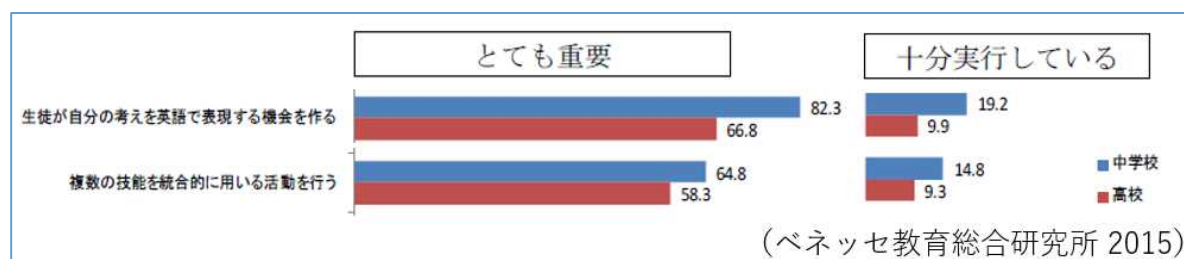


図1 中学校・高等学校の英語指導の実態と教員の意識

図1は、「指導で重要だと思うこと」を尋ねる質問で、「とても重要」「まあ重要」「あまり重要ではない」のうち「とても重要」と回答した割合と、それぞれについて「どの程度実行していますか」と尋ねた質問で「十分実行している」「まあ実行している」「あまりしていない」のうち「十分実行している」と回答した割合を示したものである。「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を

作る」ことがとても重要と考える中学校教員が 82.3%であるのに対して、それを「十分実行している」という回答は 19.2%であり、「複数の技能を統合的に用いる活動を行う」ことに関しても、十分実行している中学校教員は 14.8%となっている。この結果からも、答申が改善事項として述べている外国語教育における学習過程（どのように学ぶか）の重要性と、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した言語活動における一層の工夫の必要性を読み取ることができる。

これらのことから、生徒に見通しをもたせることを意識した授業づくりと、生徒が目的意識をもって、既習事項を活用しながら取り組める言語活動の工夫をすることが授業改善につながると考えた。そこで本研究では中学校英語科において「主体的・対話的で深い学び」の実現（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）に向けて、生徒に学習の見通しをもたせた上で、創造的なコミュニケーション活動（実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動）を取り入れた授業実践を行い、生徒の変容を見取ることで研究の成果を検証したい。

## 2 研究目的

「単元における生徒に付けたい力を明確に意識して、意味のある文脈の中で創造的なコミュニケーションとなるように言語活動を工夫すれば、『主体的・対話的で深い学び』が実現できる。」という仮説のもと、英語科の授業実践を行い、生徒の学びの変容を見取る。

## 3 研究内容

- (1) 研究期間 平成 28 年 5 月～12 月
- (2) 研究対象 田原本町立田原本中学校 第 2 学年 生徒 73 名
- (3) 研究方法 ○アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践
  - 生徒質問紙調査実施（6 月、11 月）、及び分析  
生徒の実態を把握するとともにその変容を見取る。
  - 生徒観察及び振り返りシートの分析

## 4 アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践

### (1) 実践前の研究対象校の実態

研究対象校では、第 1 学年時の英語科の授業はクラスを二つに分け、少人数で行っている。第 2 学年である対象生徒は、4 月からクラス単位での授業形態に変わり、今回の研究を開始した時期はちょうどクラス単位での授業形態に慣れてきた頃であった。6 月に実施した生徒質問紙調査では「16 今、英語の授業が好きだ。」の質問項目について「そう思う」または「どちらかというと思う」と肯定的な回答している生徒が 73 人中 53 人であるのに対し、「1 英語で会話することは得意な方だ。」の質問項目について「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と否定的に回答している生徒は 73 人中 54 人、約 74%の生徒が英語でコミュニケーションをとることに苦手と感じていることが分かった。

これまでは一斉講義形式中心の授業を行っていた。そのため、自分の考え等を伝え合う目的をもって英語を話す機会もあまりなく、発表時では英語を話すことに対して自信をもてない様子が多く見られた。また文法指導や与えられた課題でのパターン練習は多く取り入れていたが、生徒が自身の発想を用いる形でのコミュニケーション活動は少なく、ペアワーク等も授業で示した例のままの定形の対話が多かった。

## (2) 本研究での取組

英語学習の楽しさを実感し、英語のコミュニケーション能力を伸ばすために、各単元の目標（～を伝えることができる、～を理解することができる等）の達成を目指すとともに、生徒が能動的に英語を使おうとする態度を育成し、英語を苦手とする生徒の意欲と自己評価を向上させることを目標とした。「主体的・対話的に深く学ぶ」過程を通して、生徒が一層資質・能力を身に付けられる授業を目指し、その手立てとして、次のようなことを行った。

- ① ねらいを明確に示し、学習に対する見通しをもたせるために、小單元ごとに Can-Do 形式の目標を提示
- ② 単元で身に付けさせたい内容を中心に、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を統合的に活用するペアワークやグループワークの増加
- ③ 生徒が「聞きたい、言いたい」と思える創造的、即応的な要素を取り入れ、自由な発想で意見を述べ合えるようなコミュニケーション活動の導入
- ④ Student Talking Time を増やすことを意識して、理解を共有する場面やアウトプットする活動の工夫
- ⑤ 自己の成長を明確に意識させるために、一つの Unit につき 1 枚の形で振り返りシートの使用
- ⑥ 興味関心を高め、主体的な活動に導くための ICT 活用

この中でも②③④においては、各小単元の中心表現を用いて、既習事項を活用しながら自由な発想で生徒相互のやりとりができるコミュニケーション活動の工夫に力を入れた。また、「主体的・対話的で深い学び」を通しての単元の目標達成に向け、教員自身の見通しを明確にするために、授業プランニングシートを作成して計画を立てた。授業プランニングシートは、教員が「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」の過程を意識して授業をデザインすることを目的としたもので、立案の際には、従来から行っている学習活動を「主体的・対話的で深い学び」の視点から改善し、単元のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、言語活動の質を高めていくことに留意した。

## (3) 授業実践事例

### ア 実践①

使用教材：NEW HORIZON English Course 2 （東京書籍）

単 元：Unit 4 Homestay in the United States


### (7) 授業プランニングシート

目標	4-1：人に助言したり忠告したりすることができる。 ガイドブックに書かれたアドバイスを読み取ることができる。 4-2：自分の意志を述べたり、これからのことを予測したりすることができる。 4-3：友だちの話を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 ホームステイでの相談とその回答を読んで、内容を理解することができる。 4-4：友だちの伝えたいことを考え、文に表すことができる。 ホームステイでの相談とその回答を読んで、内容を理解することができる。 4-5：天気予報等を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。 友だちの話を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。			
小單元	活動	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
4-1①	warm-up (ラインゲーム) 文法説明 ワーク Sav something to them. (一斉) 英作文 1 文 (発表)	・目標提示から学習の見通しをもたせる。 ・校則をもとに自分たちの生活に置きかえて考えさせる。	・教員からの質問に対し自分の考えを答えさせる。	・さまざまな場面の中で人に助言や忠告をさせる。 ・友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。

4-1②	warm-up (単語100問テスト) 新出語句 基本文 本文・T/F・Q&A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の主題に関心をもたせる。</li> <li>学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の基本文でどんなことを伝えることができるかを考えさせる。</li> </ul>
4-2①	warm-up (文法アニメ) 文法説明 ワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> <li>自分の生活に置きかえてこれからしようと思っていることを述べさせる。</li> </ul>	
4-2②	新出語句 本文 (ペア音読) 基本文・文法アニメ <u>What will they do? (班)</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材の工夫で関心を高め、意欲的に取り組ませる。</li> <li>学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで音読させる。</li> <li>班で協働的に活動させ全体で発表させる。</li> <li>既習の知識を組み合わせる創造的に活動させる。</li> <li>友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。</li> </ul>
4-3①	warm-up (4-2復習) 今夜の予定 (英作文1文) 文法説明 ワーク 基本文・新出語句・本文	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> <li>自分たちの生活に置きかえて今夜の予定を考えさせる。</li> </ul>	
4-3② (本時)	warm-up (前回の内容復習) 本文・T/F・Q&A <u>I must ～. (個人) Liar Game (英文を考え発表)</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に取り組めるコミュニケーション活動を設定する。</li> <li>学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで音読させる。</li> <li>班で協働的に活動させ全体で発表させる。</li> <li>既習の知識を組み合わせる創造的に活動させる。</li> <li>友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。</li> </ul>
4-4①	warm-up (ラインゲーム) 文法説明 ワーク 基本文・新出語句・本文	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員からの質問に対し自分の考えを答えさせる。</li> </ul>
4-4②	warm-up (前回の内容復習) 本文・T/F・Q&A <u>I must not ～. (個人) Liar Game (英文を考え発表)</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に取り組めるコミュニケーション活動を設定する。</li> <li>学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで音読させる。</li> <li>班で協働的に活動させ全体で発表させる。</li> <li>既習の知識を組み合わせる創造的に活動させる。</li> <li>友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。</li> </ul>
4-5	明日の天気 家での決まりごと	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> <li>自分たちの生活に置きかえて家での決まりごとを述べさせる。</li> <li>学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの考えを聞き、自分はどうかをを考えさせる。</li> </ul>
授業者の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション活動に対する意欲を高めることができた。文法事項が比較的難しい内容ではなかったからか、苦手な生徒も自信をもって英作文を書くことができ発表していた。しかし、コミュニケーション活動に入る前の段階で、基本文の定着をもっとしっかり確認したい。</li> <li>振り返りシートの記述で、友だちのアイデアに対する意見を書く生徒が増えてきた。友だちの発表を聞いたりペアやグループ活動の中で新しい発見や刺激を受けたりすることで、今後の活動がより深い学びになることを期待したい。</li> </ul>		

### (イ) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	【評価規準】(評価方法)
warm-up (前回の内容復習) ・ must の用法	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書を活用し視覚に訴える。</li> <li>本時のめあてを提示し学習の見通しを確認できるようにする。</li> </ul>	
新出語句	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムに合わせて音読練習をさせる。</li> </ul>	【知識・理解】新出語句を正しく音読している。(活動の観察)
教科書本文 T/F、Q&A、内容理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>スラッシュごとに内容を理解できるようにする。</li> <li>デジタル教科書を用いて何度も音読練習をさせる。</li> <li>語順に注意させる。</li> </ul>	【理解】ホームステイでの相談とその回答を読んで、その内容を理解することができる。(ノートの確認)

コミュニケーション活動 「Liar Game」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で協力させる。</li> <li>・自由な発想で発表させる。</li> <li>・集中して聞かせる。</li> <li>・みんなに伝わるようにはっきりと大きな声で発表させる。</li> </ul>	【表現】must を用いた英文を作ることができる。(活動の観察・ワークシートの確認)
	<p>コミュニケーション活動「Liar Game」の内容</p> <p>中心表現である must を用いて「私は～しなければならない。」という文を一人1文ずつ考え、5～6名の班単位で発表する活動。ただし班の中で1名のみ嘘の内容を発表し、他の生徒がその1名を当てるというルールとする。</p> <p>班活動の中で「書く」、発表時に「話す」、「聞く」というように三つの技能を組み合わせる活動させることがねらい。</p>	 <p>図2 班活動の様子</p>
振り返りシート記入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に提示したためあて (Can-Do) を再度確認し学習内容を振り返らせる。</li> </ul>	【関心・意欲・態度】本時のためあてを理解し、意欲的に取り組んでいる。(活動の観察・振り返りシートの確認)

## イ 実践②

使用教材：NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍)

単元：Unit 5 Universal Design

### (7) 授業プランニングシート

目標	<p>5-1：ある条件や仮定で、何をするかを述べたり書いたりすることができる。 商品のカatalogを読んで、興味がある場合は、どのようにすればよいかを理解することができる。</p> <p>5-2：身近な話題について、自分の考えを述べ合うことができる。</p> <p>5-3：「車いす体験」の感想文を読んで、その内容について理解することができる。 ある条件で何をするかを書くことができる。</p> <p>5-4：身近な話題について自分の考えとその理由を書くことができる。 ユニバーサルデザインについて書かれた英文を読んで、話者の主張とその理由を理解することができる。</p> <p>5-5：ニュースを聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。 交通手段について、自分の考えを述べたり、相手の意見を聞き取ることができる。</p>			
小単元	活動	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
5-1①	warm-up (if you…歌) 文法説明・ワーク ifを使って英作文1文(個人) If it's sunny / rainy, … ユニバーサルデザインについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> <li>・天候の条件を提示し自分の意志を述べさせる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインについて身近な生活の中にどのくらいあるのかを考えさせる。</li> </ul>
5-1② (本時)	warm-up (ラインゲーム) 新出語句・基本文・本文 IFでしとり(班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の主題に関心をもたせる。</li> <li>・意欲的に取り組めるコミュニケーション活動を設定する。</li> <li>・学習を振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からの質問に対し自分の考えを答えさせる。</li> <li>・班で協働的に活動させ全体で発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の知識を組み合わせる創造的に活動させる。</li> <li>・友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。</li> </ul>
5-2①	warm-up(文法アニメ) 5-1復習 文法説明・ワーク I think ～.クラスメイトと教科について思うこと(個人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標提示から学習の見通しをもたせる。</li> <li>・日ごろ思っていることを表現させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの考えを基に、自分の考えを形成する。</li> </ul>

5-2②	新出語句 本文（ペア音読） 基本文・文法アニメ <u>Do you think ~?（個人）</u>	・意欲的に取り組めるコミュニケーショ ン活動を設定する。 ・ペアで音読させる。 ・学習を振り返らせる。	・本文の内容から自分も同じ経験があるか考えさせる。
5-3①	warm-up（5-2復習） 文法説明 <u>when の英作文1文（個人） When are you happy?</u>	・目標提示から学習の見通しをもたせる。 ・自分が幸せと感じるときがいつなのか考えさせる。	・今回の基本文でどんなことを伝えることができるか考えさせる。
5-3②	warm-up（文法アニメ） 新出語句 基本文・本文・T/F・Q&A	・コラムから、ユニバーサルデザインへの関心をもたせる。 ・学習を振り返らせる。	・本文の内容から重いすについて経験したことや学習したことを振り返らせる。
5-4①	warm-up（ラインゲーム） 文法説明 <u>because の英作文1文（個人） I like ~ because ~.</u>	・目標提示から学習の見通しをもたせる。 ・自分が好きな人物とその理由を考えさせる。	・今回の基本文でどんなことを伝えることができるか考えさせる。
5-4②	warm-up（文法アニメ） 新出語句 基本文・本文・T/F・Q&A	・コラムから、ユニバーサルデザインへの関心をもたせる。 ・学習を振り返らせる。	・本文の内容からさらにユニバーサルデザインについて考えさせる。
5-5	ニュースを聞こう 交通手段はどちら？	・目標提示から学習の見通しをもたせる。 ・ペアで活動させる。 ・学習を振り返らせる。	
授業者の振り返り	・生徒の興味ある題材を使用することで授業に対する関心意欲が高まった。 ・自分たちの身近な生活に置きかえて考えさせる機会を設けたが、条件や理由など接続詞を用いることで文章が長くなるにつれて英語の語順が混乱してしまう生徒が多かったので、英語の基本を毎回確認しながら丁寧に説明を加える必要があった。		

#### (イ) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	【評価規準】（評価方法）
warm-up （ラインゲーム）	・一問一答でいろいろな疑問文を用いてたくさんの生徒が発表できる機会とする。 ・本時のめあてを提示し学習の見通しを確認できるようにする。	
新出語句	・リズムに合わせて音読練習をさせる。	【知識・理解】 新出語句を正しく音読している。（活動の観察）
基本文音読練習 教科書本文	・デジタル教科書を用いて何度も音読練習をさせる。 ・基本文から前回の文法の復習をする。	【理解】 カタログの内容を読み取ることができる。（ノートの確認）
コミュニケーション活動 「IFでしりとり」	・ifの節は現在形にする。 ・創造的な文章を班で協力して考えさせる。 ・コミュニケーション活動の仕方をICTを活用して説明する。 ・集中して聞かせる。 ・みんなに伝わるようにはっきりと大きな声で発表させる。	【表現】 ある仮定で何をするかを書くことができる。（活動の観察・ワークシートの確認）

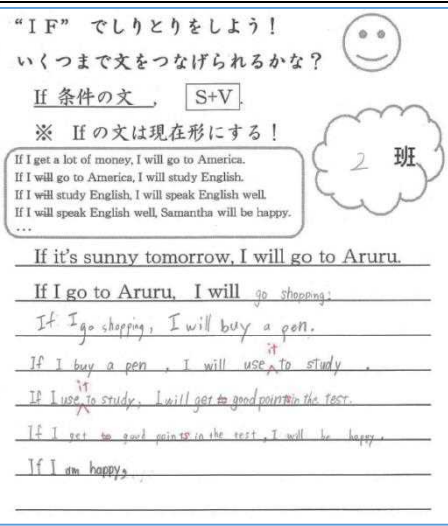
	<p>コミュニケーション活動「IF でしりとり」の内容</p> <p>中心表現である if 節を用いた文によるしりとりで、主節を次の文の従属節 (if) として班内のリレー形式で次々と文をつないでいく活動。一人目が書いた文を読んで二人目が次の文を考える、という繰り返して、最後にはクラス全体に発表する。班活動の中で読む、書く、そして全体への発表時に話す、聞くというように、四つの技能を組み合わせる活動させることがねらい。</p>	 <p>“IF” でしりとりをしよう！ いくつまで文をつなげられるかな？</p> <p>If 条件の文, S+V ※ If の文は現在形にする！</p> <p>If I get a lot of money, I will go to America. If I will go to America, I will study English. If I will study English, I will speak English well. If I will speak English well, Samantha will be happy. ...</p> <p>If it's sunny tomorrow, I will go to Aruru. If I go to Aruru, I will go shopping. If I go shopping, I will buy a pen. If I buy a pen, I will use it to study. If I use it to study, I will get good points in the test. If I get good points in the test, I will be happy. If I am happy, ...</p> <p>2 班</p>
<p>振り返りシート 記入</p>	<p>・最初に提示したためあて (Can-Do) を再度確認し学習内容を振り返らせる。</p>	<p>【関心・意欲・態度】本時のめあてを理解し、意欲的に取り組んでいる。(活動の観察・振り返りシートの確認)</p>

図3 使用したワークシート

## 5 研究結果と考察

### (1) 生徒観察より

実践①「Liar Game」では班で liar を決めるときから楽しく活動する様子が見られた。「(手を骨折しているので今は自転車に乗れず)徒歩で登校しなければならない」「今夜塾に行かなければならない」など生徒の日々の身近な生活に関する話題が多く、意味のある英語を表現することができた。班単位での活動では、互いに教え合う姿が見られた。単に自作の文を発表するだけなら、他人の発表にあまり注意を払わない生徒も出ることが予想されるが、liar を見抜くという目的があるこの活動では、全生徒が他の班の発表を注意深く聞こうとしていた。

実践②「IF でしりとり」では、話し合う中で「買い物に行く→ペンを買う→ペンを勉強で使う→テストでいい点を取る→うれしくなる」等と、どんどん新しい発想が広がった班もあれば、最初の仮定文に意図的に戻すために表現を工夫する班もあり、創造性豊かな活動となった。ここでも班内で教え合う姿が見られた。Unit 4 から続けている、自身で創造するコミュニケーション活動に生徒たちが慣れてきたこともあり、より他の生徒の関心を惹く文にしようと、様々なアイデアが飛び出してきた。既習事項を活用して本時の中心表現を用いた文を作ることに対して興味をもって取り組む姿が見られた。

研究を開始した当初は、教科書等で示されている例をそのまま使って文を作る等、創造的な英文を考える機会が乏しかったが、ICTを活用して目標や方法を提示し、コミュニケーション活動の説明をしたり、生徒が分かりやすいような問いかけなど授業のデザインを少し工夫したりすることで、回数を重ねるごとに主体的に取り組む楽しく活動する姿が見られた。

### (2) 振り返りシートより

Unit 4 と Unit 5 で使用した振り返りシートでは、本時の目標を、A (達成できた)・B (だいたい達成できた)・C (あまり達成できなかった)・D (全く達成できなかった) の4段階で自己評



価する欄を設けた。Unit 4-1～Unit 5-5の結果を平均すると約 89.5%の生徒が A または B と肯定的に自己評価している（図 4、図 5）。Unit 4-5 の自己評価は相対的に低い、ここはリスニング練習と決まったパターン練習の単元で、そのリスニングが少し難しかったことと、主体的なコミュニケーション活動がなかったためではないかと考える。また、Unit 5-3 と Unit 5-4 では、時間的な都合でほぼ講義中心の一斉学習の授業形態になり、創造的なコミュニケーション活動の時間が取れず与えられた課題で個人で英作文を考える活動だったためか、自己評価も低い数値であった。その後の Unit 5-5 ではリスニング練習とともに、自分の意見を発表するコミュニケーション活動を行ったところ、ほぼ全員が肯定的な自己評価をしており、「自分の意見を理由も含めて言えた」、「相手の意見をしっかり聞けた」等と達成感を感じている記述も見られた。

振り返り内容としては、「もっと他の表現を知りたい」、「内容は分かったが単語を覚えられなかったから復習をしようと思う」というように、具体的にできたことと課題を記入している。文法項目以外でも「ユニバーサルデザインのこともっと知りたい」、「〇〇の場合、自分はどうか考えた」などと、単元のテーマに関連した内容や外国の文化により興味を抱いた記述や、「〇〇さんの発想はすごいと思った」などペアやグループ活動の中で友だちの新たな一面を知り、より協働的な学びについての記述が増えた。

その他にも振り返りシートに質問や、「I think that <タレ

振り返りシート				
2年 組 (男・女) 番 氏 名				
※自己評価は、目標 (CAN-DO) に対して A (達成できた)・B (だいたい達成できた)・C (あまり達成できなかった)・D (全く達成できなかった) のうち、どれか1つを○でかみましよう。				
単元	自己評価とその理由	① 学んだことや分かったこと	② 疑問に思ったことやもっと知りたいこと	③ 先生や友だちとの会話で心に残った言葉
4-1	CAN-DO (S)人に助言したり忠告したりすることができる。 (M)自分の学校でする必要のあることやしなくてよいことを文で表すことができる。 (R)ガイドブックに書かれたアドバイスを読み取ることができる。 < A・B・C・D > 理由:	①	②	③
4-2	CAN-DO (S)自分の意志を述べたり、これからのことを予測したりすることができる。 (S')今夜の予定を文で表し、発表することができる。 < A・B・C・D > 理由:	①	②	③
4-3	CAN-DO (W-L)友だちの話聞いて、概要や要点聞き取ることができる。 (S)しなければならぬことについて、述べるができる。 (R)ホームステイでの相談とその回答を読んで、内容を理解することができる。 < A・B・C・D > 理由:	①	②	③
4-4	CAN-DO (W)友だちの伝えたいことを考え、文に表すことができる。 (S)してはいけないこと(する必要のないこと)について、述べるができる。 (R)ホームステイでの相談とその回答を読んで、内容を理解することができる。 < A・B・C・D > 理由:	①	②	③
4-5	CAN-DO (L)天気予報等聞いて、概要や要点聞き取ることができる。 (S-L)友だちの話聞いて、概要や要点聞き取ることができる。 < A・B・C・D > 理由:	①	②	③

図 4 Unit 4 で使用した振り返りシート

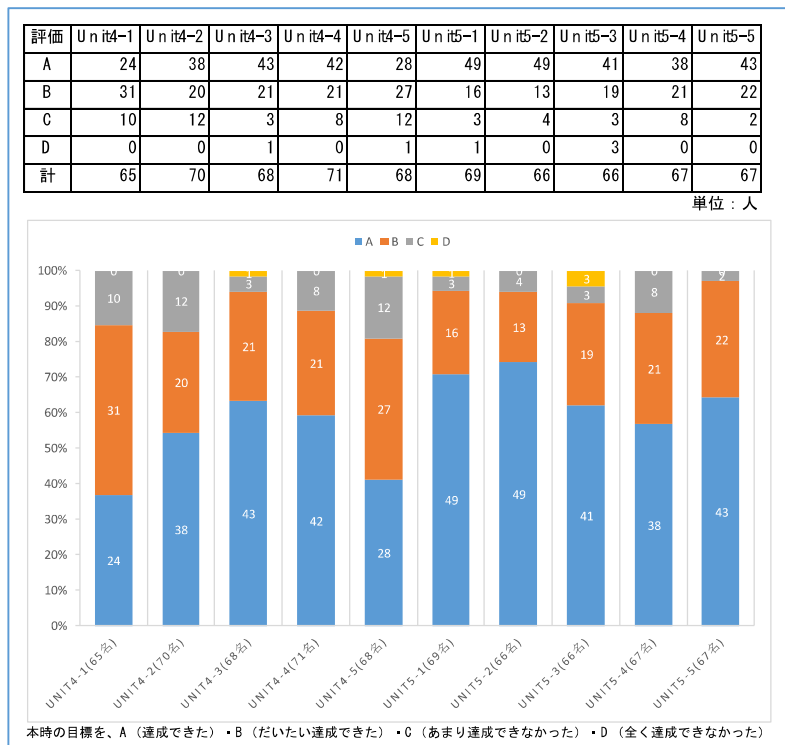


図 5 自己評価の推移



ント名> is perfect.」、*「I like <歌手名> because she is a good singer.」*のように、授業では言えなかったが本当は言いたかったことを、学習した文法を使って自分の興味のある内容についての英文をつくる生徒が数名出てきた。また、授業以外においても清掃時間に「*I finished cleaning the windows.*」のように自然に英語を使う生徒が出てきた。

個人の変容で著しく変化が見られた生徒Aは、1学期の時点では「英語の授業に興味を持てなかった」と回答していたが、2学期の振り返りシートの自己評価はすべてA（達成できた）と回答しており、挙手や発表をするなど意欲的に取り組む姿が見られた。

また1学期に「興味がなく英語をやる意味がない」と記述していた生徒Bは、2回目は「わりとがんばった」、3回目は「積極的にがんばった」と回数を重ねるごとに自己評価も上がってきた。そして2学期からの振り返りシートでは、すべてB（だいたい達成できた）と回答しており、「できないと思っていた英作文が書いてほめてもらった」、「単語がわかるようになった」、「英語をもっとがんばりたい」、「先生みたいに英語をしゃべってみたい」等と前向きなコメントが見られるようになった。

### (3) 生徒質問紙調査より

生徒の意識の変容を測定するため、対象生徒に事前（6月）と事後（11月）に英語に関する37項目による質問紙調査を行った。質問紙の内容は、英語の学びに対する考えや意欲を問う項目（「算数・数学教育における問題解決学習の研究(6) 高校生の数学の学習に関する意識調査」重松敬一、嶋田恵司(通号9)2000-03において開発された「数学の学習に関する意識調査」を参考にし作成したもの）に、学びの形態に関する項目等、独自に作成した項目を加えたもので構成した。各質問項目については、統計的処理を行うために、4件法を採用した。集計の際には、それぞれの回答について肯定的な回答から順番に「そう思う」を4点、「どちらかといえばそう思う」を3点、「どちらかといえばそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点と、1点刻みで高得点のものほど肯定的であることを示すように得点化した。分析には、IBM社のSPSS21を用いた。

取組の前後に実施した同項目の調査の平均値の差が統計的に有意かを確かめるためにt検定による分析を行ったところ、次の五つの質問項目においていずれも $p < .05$ で有意な差が見られた(表1)。「1 英語で会話をするのは得意な方だ。」「4 単語や文法を覚えるのは得意な方だ。」「13 小学6年生のとき外国語活動が好きだった。」「29 英語の授業は、友達と相談しながら学びたい。」「35 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っている。」これら五つの回答の詳細を表したものが図6である。

この中で、最初に課題の一つと考えた英語を話すことに対する苦手意識については、「1 英語で会話をするのは得意な方だ。」の質問項目に対して、平均値で0.46 (11.5%)、人数では32人が11月の方が数値が上がっている。同じく「4 単語や文法を覚えるのは得意な方だ。」の質問項目に対し、平均値で0.32 (8.0%)、人数では29人の上昇が見られた。またこの2項目については、6月に1または2と回答した生徒の半数以上の数値が上昇している。一方、「13 小学6年生のとき外国語活動が好きだった。」は平均値で0.21 (5.3%)、「29 英語の授業は、友だちと相談しながら学びたい。」については、平均値で0.23 (5.8%)の低下が見られた。このうち「13 小学6年生のとき外国語活動が好きだった。」については、中学校で英語を学ぶうちに外国語活動についての印象が変わったものと推察した。

表1 t検定の結果

質問項目	N	6月		11月		t値
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
1 英語で会話することは得意な方だ。	71	1.99	0.92	2.45	0.91	-4.56 **
2 先生の説明を理解できるようになりたい。	71	3.59	0.73	3.59	0.69	0.00
3 英語は、将来自分がおとなになったとき、役に立つ。	71	3.34	0.92	3.30	0.83	0.40
4 単語や文法を覚えるのは得意な方だ。	71	2.55	1.05	2.87	0.97	-3.31 **
5 英語のテストを受けることは、自分の成長に役立つ。	71	3.11	0.73	3.27	0.76	-1.62
6 わからないときには、納得がいくまで考える。	71	2.75	0.86	2.80	0.79	-0.60
7 英語でコミュニケーションがとれるとうれしい。	71	3.32	0.86	3.31	0.80	0.14
8 創造的に考えることは大切である。	71	3.03	0.77	3.14	0.74	-0.94
9 英語の授業で、分からなかったことが分かったときうれしい。	71	3.49	0.73	3.41	0.77	0.83
10 英語で、もっとうまい言い方や別の表現はないかと考える。	71	2.55	0.94	2.51	0.75	0.36
11 英語の時間に、先生にほめられるとうれしい。	71	3.35	0.81	3.21	0.84	1.30
12 英語をたくさん聞くことは大切である。	71	3.32	0.79	3.32	0.75	0.00
13 小学6年生のとき外国語活動が好きだった。	71	2.89	1.14	2.68	1.11	2.03 *
14 英語は、教室で一斉の講義形式で勉強するのが好きだ。	71	2.54	0.97	2.70	0.92	-1.22
15 自分の意見や考えを英語でたくさん書くことは大切である。	71	3.06	0.89	3.11	0.77	-0.51
16 今、英語の授業が好きだ。	71	2.99	0.99	3.06	0.81	-0.60
17 英語を使って、世界で活躍できる人になりたい。	71	2.35	1.02	2.32	1.01	0.23
18 英語の授業で、他人に説明すると、自分の理解が進む。	71	3.06	0.77	3.04	0.89	0.15
19 英語は、日常生活で役に立つ。	71	2.90	1.03	2.82	1.00	0.68
20 英語の授業は、ICT機器を使って学びたい。	71	2.92	1.07	2.89	1.04	0.17
21 英語の授業の内容はよく分かる。	71	3.01	0.90	3.18	0.78	-1.99
22 今、英語は得意な方だ。	71	2.56	1.17	2.69	1.13	-1.07
23 英語は、ペアやグループで勉強するのが好きだ。	71	2.89	1.05	2.65	1.14	1.71
24 英語をたくさん読むことは大切である。	71	3.28	0.76	3.18	0.92	0.87
25 分かるが増えると、新しく疑問が生まれてくることがある。	71	2.77	0.88	2.72	0.88	0.47
26 小学校での外国語活動より、中学校の英語の授業の方が好きだ。	71	2.94	1.04	3.00	0.97	-0.46
27 英語を勉強していると楽しい。	71	2.79	0.97	2.87	0.81	-0.76
28 新しい知識や表現を身に付けたい。	71	3.13	0.89	3.28	0.76	-1.31
29 英語の授業は、友達と相談しながら学びたい。	71	3.08	0.86	2.85	0.99	2.32 *
30 英語を通じて、日本や海外の文化を理解することは大切である。	71	3.03	0.88	2.96	0.85	0.60
31 英語のテストでよい成績をとるとうれしい。	71	3.79	0.58	3.75	0.65	0.49
32 英語の授業で、その時間の目標(めあて)を理解している。	71	2.66	1.00	2.75	0.75	-0.67
33 英語は、科学・技術や経済・社会の発展に貢献している。	71	2.87	0.88	2.97	0.83	-0.80
34 英語の、日常生活での使われ方を理解することは大切である。	71	3.14	0.76	3.06	0.79	0.83
35 授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っている。	71	2.21	0.89	2.69	0.92	-3.73 **
36 英語の歌詞や映画のセリフが聞き取れるとうれしい。	71	3.34	0.94	3.31	0.82	0.23
37 英語の授業は、ビデオやスライドショーを使って学びたい。	71	3.03	0.97	3.07	0.98	-0.31

\*\*p<.01 \*p<.05



図6 有意な差が見られた質問項目の回答別人数の詳細

#### (4) 考察

##### ア 「主体的な学び」について

小单元ごとの目標を授業開始時に画面に提示したことと、振り返りシート記入時にも確認できるようにしたことで、生徒はより明確に見通しをもって学習活動に取り組んだ。振り返りシートの「ガイドブックの内容は読み取れたが、人に助言したり忠告したりまではできなかった」「しっかり声を出して読んだので、単語、熟語を覚えた」「英文をもっとさらさらっと読めるようにしたい」等の記述から、目標を理解し、達成具合や課題を自己分析していることが分かる。

また、創造的なコミュニケーション活動に慣れてくるにつれ、他の生徒に聞いてもらおうと一層工夫する姿が見られた。このことから、画像の活用や答えが決まっていない発問、全員が発表する必然性のある活動、グループ活動等での教え合いにより、特にそれまで英語を苦手と感じていた生徒にとって、「間違ふこと」に対する抵抗感も薄れてきたのではないかと考える。能動的な活動を伴うコミュニケーション活動を取り入れることによって関心が高まり、それがより創作的な表現の工夫に結び付いたのではないだろうか。質問紙調査において、質問項目「1 英語で会話をすることは得意な方だ。」「4 単語や文法を覚えるのは得意な方だ。」の両方とも40%以上の生徒の回答が事後調査で上昇したことからも、今回の実践は、英語に対する苦手意識の低減、延いては学習意欲の向上につながるものだと考える。

##### イ 「対話的な学び」について

講義中心の一斉学習形式となった单元や、ほぼセリフが決まっている状態のコミュニケーション活動を行った单元と比べ、今回取り組んだ「自分の考えたことを発信する、他人の考えを聞いて対応する」といったコミュニケーション活動を行った单元の方が、振り返りシートの自己評価が高かった。教室で身に付けた英語を、中学生が実生活で活用できる機会は少ない。授業の中でそれに代わるコミュニケーション活動を取り入れるということは、「話す・聞く意味のある英語」をコミュニケーションの手段として使うことだと考える。

##### ウ 「深い学び」について

既習の知識を関連付けながら「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を統合的に活用し、情報や意見を発信したり理解したりすることを意識して活動をデザインした。生徒がそれぞれ工夫しながら、学んだ知識を用いて身近な話題を英語で表現したり他の生徒の発表を聞いたりする様子や、「もっと他の表現を知りたい」、「〇〇の場合、自分はどうするか考えた」等の振り返りから、英語でコミュニケーションを行うことに積極的になり、学習内容をより深く学ぶことができたことが分かる。答申で示されている「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」という「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現することにつなげることができたと考える。

#### (5) 今後の課題

生徒質問紙調査の中で、「29 英語の学習は、友だちと相談しながら学びたい。」の平均点は事後調査のほうが低い値となった。その要因として、二つのことが考えられる。一つ目は、英語の語彙力等の差が著しく、特にペアワークをするときにうまく活動できなかったペアがいたことである。ペアやグループで活動するときは様々な生徒と関わられるように組み合わせを工夫する必要があった。これは、本実践前に行っていた決まったパターンでのやり取りでは見えなかったことで

ある。生徒が発信したい内容を正しく伝えられるように、学習内容の一層の定着を図る必要性を感じた。二つは、コミュニケーション活動の時間を確保するために一斉講義形式の時間を削減したことである。新出文法の説明方法をプリントに変更したためスピード感が出たが、授業全体の中で生徒が挙手して発言する機会が減少し、生徒同士の対話は増えたものの生徒と教員の対話が減った。またそれまでのように生徒が自分でノートに書いてまとめるという作業がなくなり、説明に関しても丁寧さに欠けてしまった。生徒の「発信したい、理解したい」という気持ちを刺激するようなコミュニケーション活動と一斉講義形式の授業形態、生徒同士の対話と生徒－教員間の対話、どちらもバランスよく取り入れ、一斉の講義形式の中にも能動的に生徒が学べる活動を増やすことが必要だと考える。

また、今回の実践で学習意欲の高まりや苦手意識の低減は質問紙調査でも数値として現れたが、学びの深まりを客観的に見取るための質問項目の精選や工夫、更には評価方法の工夫改善が必要であると考え。学びの過程を一層重視し、コミュニケーション活動の中で繰り返し思考・判断・表現する場面を通して生徒の資質・能力を育成できるよう、アクティブ・ラーニングの視点から総合的に授業をデザインしていくことに、継続して取り組んでいきたい。

## 参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成20年）『中学校学習指導要領』
- (2) 文部科学省（平成20年）『中学校学習指導要領解説総則編』
- (3) 文部科学省（平成28年）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）』  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm)
- (4) ベネッセ教育総合研究所（2015）『中高の英語指導に関する実態調査2015』  
<http://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=4776>
- (5) 教育課程研究会（2016）『「アクティブ・ラーニング」を考える』東洋館出版社
- (6) 文部科学省初等中等教育局（平成25年）『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』
- (7) 重松敬一、嶋田恵司（2000）「算数・数学教育における問題解決学習の研究(6) 高校生の数学の学習に関する意識調査」『教育実践研究指導センター研究紀要（9）』奈良教育大学教育学部附属教育実践研究指導センター pp75－87